



2019年度 期末連結決算

新型コロナウイルスの影響により、営業上は減収・減益

関西エアポート株式会社は、2019年4月から2020年3月までの第5期会計年度連結決算において、営業収益は2,158億円、営業利益は524億円、経常利益は412億円、当期純利益*は335億円を計上しました。

当期は、一昨年台風21号からの反動増がありましたが、2020年2月以降の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、前期と比較すると、営業収益は2%の減少、営業利益は8%の減少となりました。一方、前期に多額の災害関連損失を計上していたことや、当期に台風被害にかかる保険金を多く受け取ったことにより、特別損益が前期と比べ106億円改善し、当期純利益では13%の増益となりました。

なお、前期の営業収益、営業利益には、台風によってそれぞれ82億円、64億円のマイナスの影響がありました。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当期の営業収益、営業利益には、それぞれ192億円、130億円のマイナスの影響がありました。

(連結損益計算書)

(単位：億円)

	2018.4-2019.3	2019.4-2020.3	増減	%
営業収益	2,204	2,158	(46)	-2%
外部費用	(1,233)	(1,228)	5	-0%
EBITDA	971	930	(41)	-4%
減価償却費	(398)	(406)	(8)	+2%
営業利益	573	524	(49)	-8%
経常利益	461	412	(49)	-11%
当期純利益*	296	335	39	+13%

* 「当期純利益」は、「当社株主に帰属する当期純利益」を記載しています。

(航空需要の状況)

関西国際空港では、新型コロナウイルスの感染拡大後は、その影響を大きく受けましたが、年度を通じては、特に中国や東南アジア方面の新規就航・増便や長距離路線の新規就航などにより、2019年度の航空機発着回数は、年度として過去最高の結果となりました。大阪国際空港におきましては前年より微減、神戸空港では規制緩和による影響もあり増加した結果、3空港の総発着回数は36.6万回となりました。

航空旅客数は、関西国際空港では、2020年1月まで好調に推移していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きく、年度を通じては前年を下回り、大阪国際空港におきましても、同じく前年を下回りました。神戸空港におきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けましたが、規制緩和による影響もあり前年比3%の増加となりました。3空港の総旅客数は、前年度を下回る4,782万人となりました。

	2018.4-2019.3	2019.4-2020.3	増減	増減率
航空機発着回数（万回）	35.8	36.6	0.8	+2%
関西国際空港	19.0	19.6	0.6	+3%
大阪国際空港	13.8	13.7	(0.1)	-1%
神戸空港	3.0	3.3	0.3	+11%
航空旅客数（万人）	4,890	4,782	(108)	-2%
関西国際空港	2,941	2,877	(64)	-2%
大阪国際空港	1,630	1,577	(53)	-3%
神戸空港	319	329	10	+3%

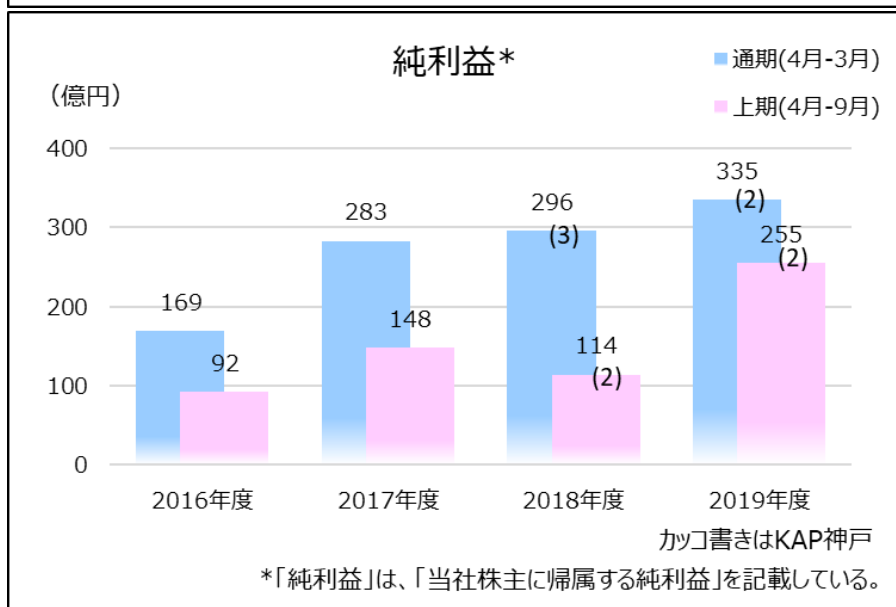
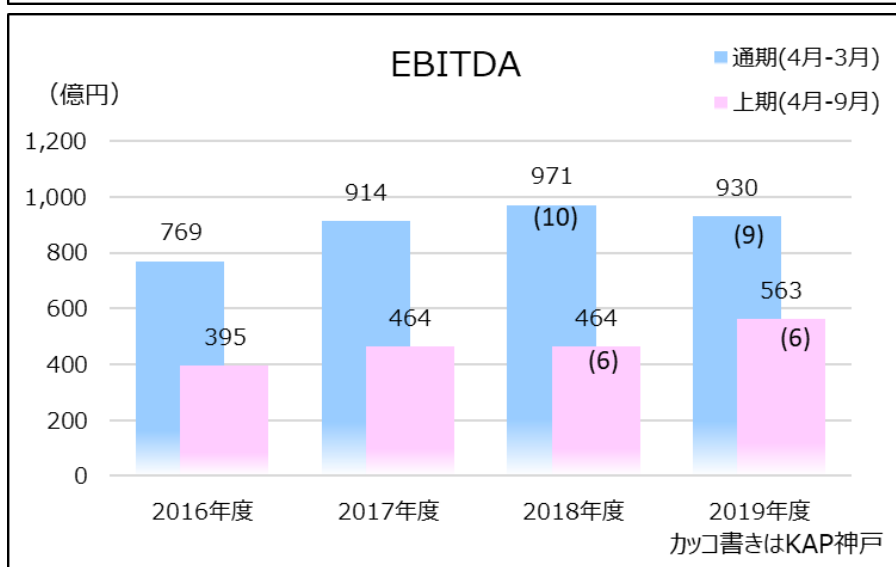
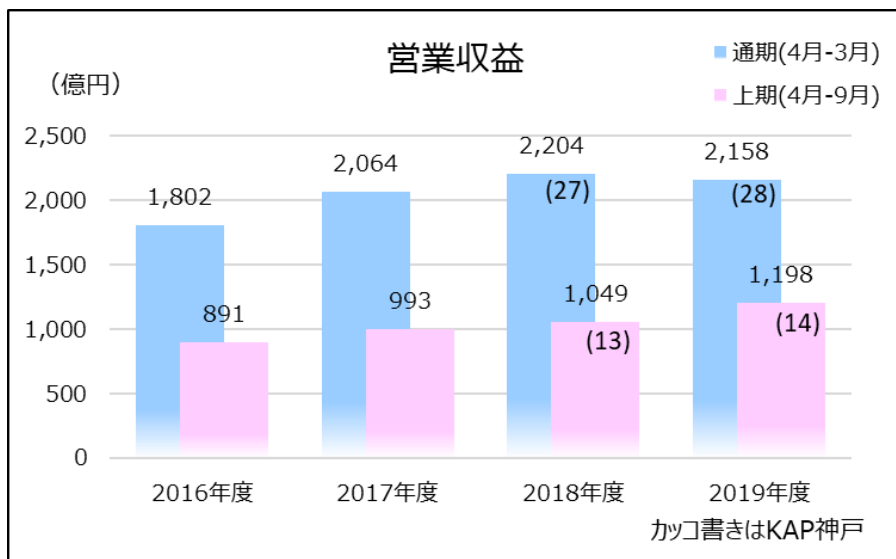
(連結貸借対照表)

2020年3月31日現在における財政状態は、前期末と比べると、公共施設等運営権に係る負債の支払いと、公共施設等運営権の償却が進んだ結果、資産・負債ともに減少となり、資産合計は1兆7,325億円、負債合計は1兆6,230億円となりました。

(単位：億円)

	2019.3.31 現在	2020.3.31 現在	増減
流動資産	1,764	1,690	(74)
固定資産	15,809	15,635	(174)
資産合計	17,573	17,325	(247)
流動負債	815	799	(16)
固定負債	15,818	15,431	(388)
負債合計	16,633	16,230	(403)
株主資本	932	1,087	155
その他の包括利益累計額	(5)	(6)	(1)
非支配株主持分	13	15	2
純資産合計	940	1,096	156
負債・純資産合計	17,573	17,325	(247)

(参考資料) 連結決算の推移



【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社 企画・管理部
 コーポレート・コミュニケーションズ
 Tel : 072-455-2201

連 結 損 益 計 算 書

〔 自 2019 年 4 月 1 日 〕
〔 至 2020 年 3 月 31 日 〕

(単位: 百万円)

営業収益		215,775
営業原価		139,312
営業総利益		76,462
販売費及び一般管理費		24,062
営業利益		52,400
営業外収益		1,037
受取利息及び配当金	670	
持分法による投資利益	125	
その他の営業外収益	241	
営業外費用		12,206
支払利息	12,049	
支払手数料	100	
その他の営業外費用	57	
経常利益		41,230
特別利益		12,502
固定資産売却益	0	
補助金収入	505	
災害に伴う受取保険金	11,996	
特別損失		5,052
固定資産除却損	205	
固定資産売却損	0	
固定資産圧縮損	623	
更新投資に伴う撤去費用	696	
災害による損失	1,814	
災害損失引当金繰入額	1,030	
支店閉鎖損失	196	
商品評価損等	484	
税金等調整前当期純利益		48,680
法人税、住民税及び事業税	15,233	
法人税等調整額	△ 309	
当期純利益		33,755
非支配株主に帰属する当期純利益		230
親会社株主に帰属する当期純利益		33,525

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

連 結 貸 借 対 照 表

〔2020年3月31日現在〕

(単位: 百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	169,010	流 動 負 債	79,895
現金及び預金	128,038	買掛金	632
受取手形及び売掛金	6,556	未払金	26,003
商 品	5,763	未払費用	3,166
原材料及び貯蔵品	1,219	1年内返済予定の長期借入金	3,310
1年内回収予定の差入保証金	13,341	1年内支払予定の公共施設等運営権に係る負債	29,786
未 収 金	7,299	未払法人税等	7,916
そ の 他	7,129	賞与引当金	1,078
貸倒引当金	△ 337	ポイント引当金	94
		災害損失引当金	1,078
		そ の 他	6,827
固 定 資 産	1,563,535	固 定 負 債	1,543,072
有 形 固 定 資 産	49,789	社 債	4,860
建物及び構築物	3,934	長期借入金	162,690
機械装置及び運搬具	10,410	公共施設等運営権に係る負債	1,312,316
工具器具備品	7,380	特別修繕引当金	47,675
土 地	603	災害損失引当金	358
建設仮勘定	27,306	退職給付に係る負債	4,683
そ の 他	154	そ の 他	10,488
無 形 固 定 資 産	1,409,054		
公共施設等運営権	1,382,620		
更新投資に係る資産	25,244	負 債 合 計	1,622,967
そ の 他	1,188	純 資 産 の 部	
投資その他の資産	104,692	株 主 資 本	108,694
投資有価証券	1,458	資 本 金	25,000
退職給付に係る資産	218	資 本 剰 余 金	25,000
差入保証金	95,019	利 益 剰 余 金	58,694
繰延税金資産	7,810	その他の包括利益累計額	△ 630
そ の 他	193	その他有価証券評価差額金	27
貸倒引当金	△ 8	繰延ヘッジ損益	△ 657
		非支配株主持分	1,514
		純 資 産 合 計	109,578
資 産 合 計	1,732,546	負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,732,546

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	株主	オリックス40%、 ヴァンシ・エアポート40%、 その他の出資者20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界37カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、45空港の開発・運営を行っています。同社の空港ネットワークを構成するブラジル、カンボジア、チリ、コスタリカ、ドミニカ共和国、フランス、日本、ポルトガル、セルビア、スウェーデン、イギリス、そしてアメリカ合衆国の空港には、合計で250社以上の航空会社が就航し、2019年の旅客者数は2億5,500万人にのぼります。

ヴァンシ・エアポートは総合インテグレーターとしての専門知識を駆使し、空港の開発・資金調達・建設・運営に当たっています。またその投資力、国際ネットワーク、ノウハウを生かして、空港の運営と機能を最適化し、施設拡充や新規建設事業を行っています。

2019年の連結売上高は26億ユーロ、グループ全体の売上高は49億ユーロ（関連会社含む）に達しました。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社JT B、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

2019年度 期末連結決算

2020.06.10

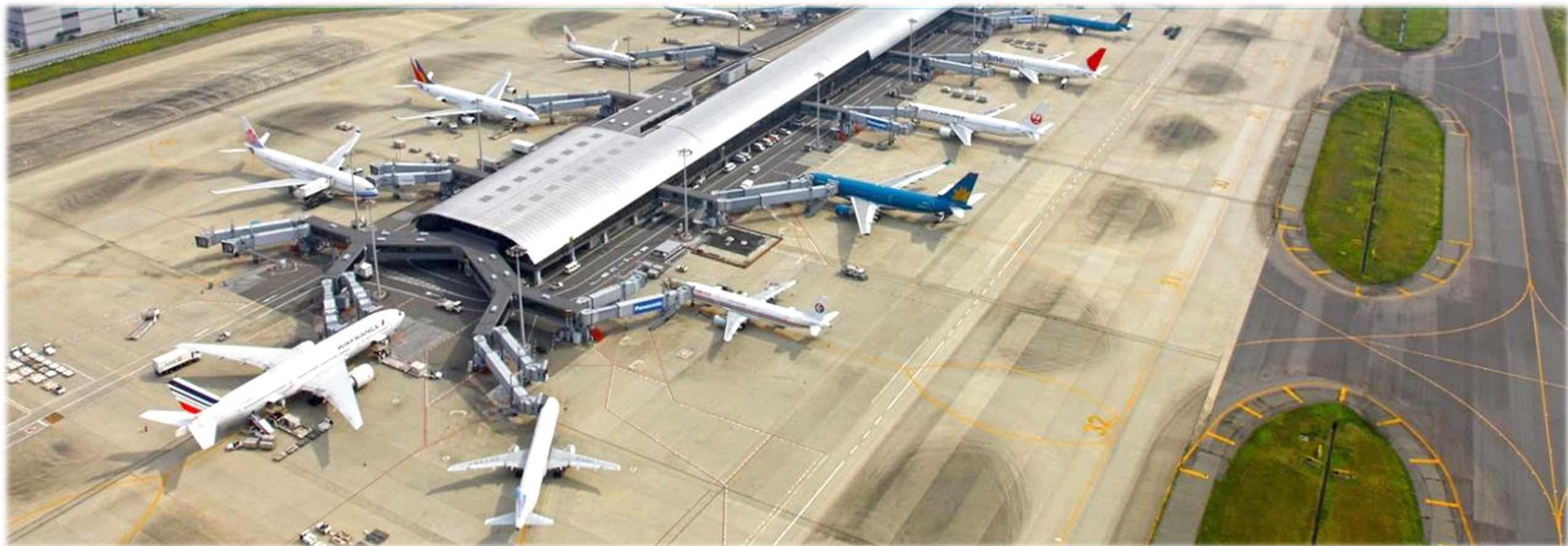
Shaping a New Journey



アジェンダ

- 2019年度 期末連結決算の概要
- 営業収益分析
- 質疑応答





2019年度 期末連結決算の概要

新型コロナウイルスの影響により、営業上は減収・減益

【単位：億円】

1. 中国・東南アジア方面や長距離路線の新規就航・増便、神戸空港の規制緩和もあり、2020年1月までは好調に推移

2. 新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け前年と比べ減収、営業利益ベースでは減益

3. 2018年台風21号による影響
⇒受取保険金の増加や災害関連損失の減少により当期純利益は増益

	2018.4-2019.3	2019.4-2020.3	増減	%
営業収益	2,204	2,158	(46)	-2%
EBITDA	971	930	(41)	-4%
営業利益	573	524	(49)	-8%
経常利益	461	412	(49)	-11%
当期純利益*	296	335	39	+13%

*「当期純利益」は、「当社株主に帰属する当期純利益」を記載

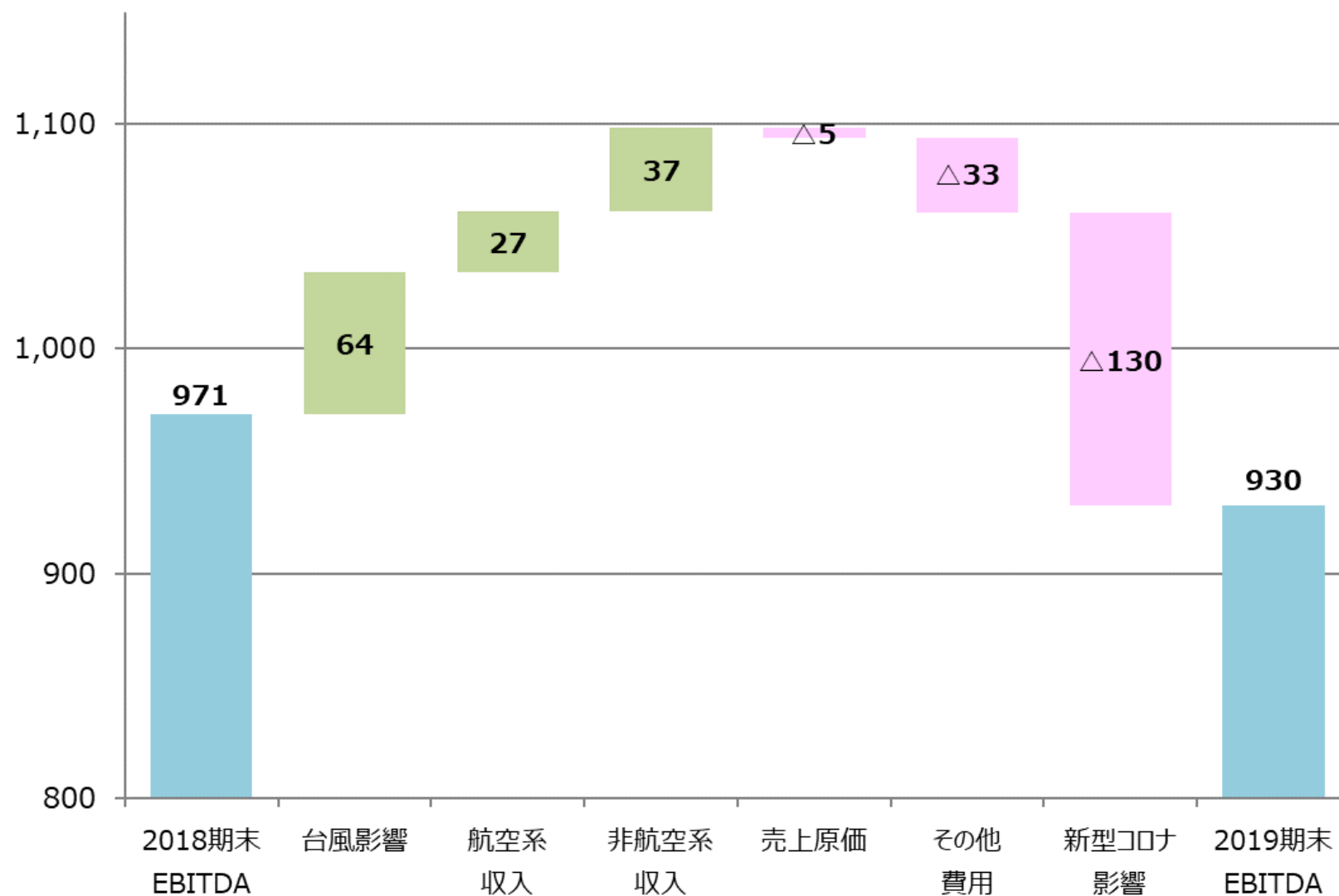
経営成績

【単位：億円】

	2018.4-2019.3	2019.4-2020.3	差額	%	うち COVID-19 影響額	うち 台風影響額	うち COVID-19 ・台風以外**
営業収益	2,204	2,158	(46)	-2%	(192)	82	64
航空系	902	893	(9)	-1%	(73)	36	27
非航空系	1,301	1,264	(37)	-3%	(120)	46	37
営業費用（減価償却費除く）	(1,233)	(1,228)	5	-0%	62	(19)	(38)
EBITDA	971	930	(41)	-4%	(130)	64	25
減価償却費	(398)	(406)	(8)	+2%			(8)
営業利益	573	524	(49)	-8%	(130)	64	17
営業外損益	(112)	(112)	0	-0%			0
経常利益	461	412	(49)	-11%	(130)	64	17
特別損益	(32)	74	106	-336%		110	(4)
法人税等、非支配株主帰属損益	(133)	(152)	(18)	+14%	40	(53)	(5)
当期純利益*	296	335	39	+13%	(90)	120	9

EBITDA分析

【単位：億円】



バランスシート

【単位：億円】

	2019.3.31現在	2020.3.31現在	増減
流動資産	1,764	1,690	(74)
固定資産	15,809	15,635	(174)
資産合計	17,573	17,325	(247)
流動負債	815	799	(16)
固定負債	15,818	15,431	(388)
負債合計	16,633	16,230	(403)
株主資本	932	1,087	155
その他の包括利益累計額	(5)	(6)	(1)
非支配株主持分	13	15	2
純資産合計	940	1,096	156
負債・純資産合計	17,573	17,325	(247)

公共施設等
運営権等

公共施設等
運営権に係る負債等



營業收益分析

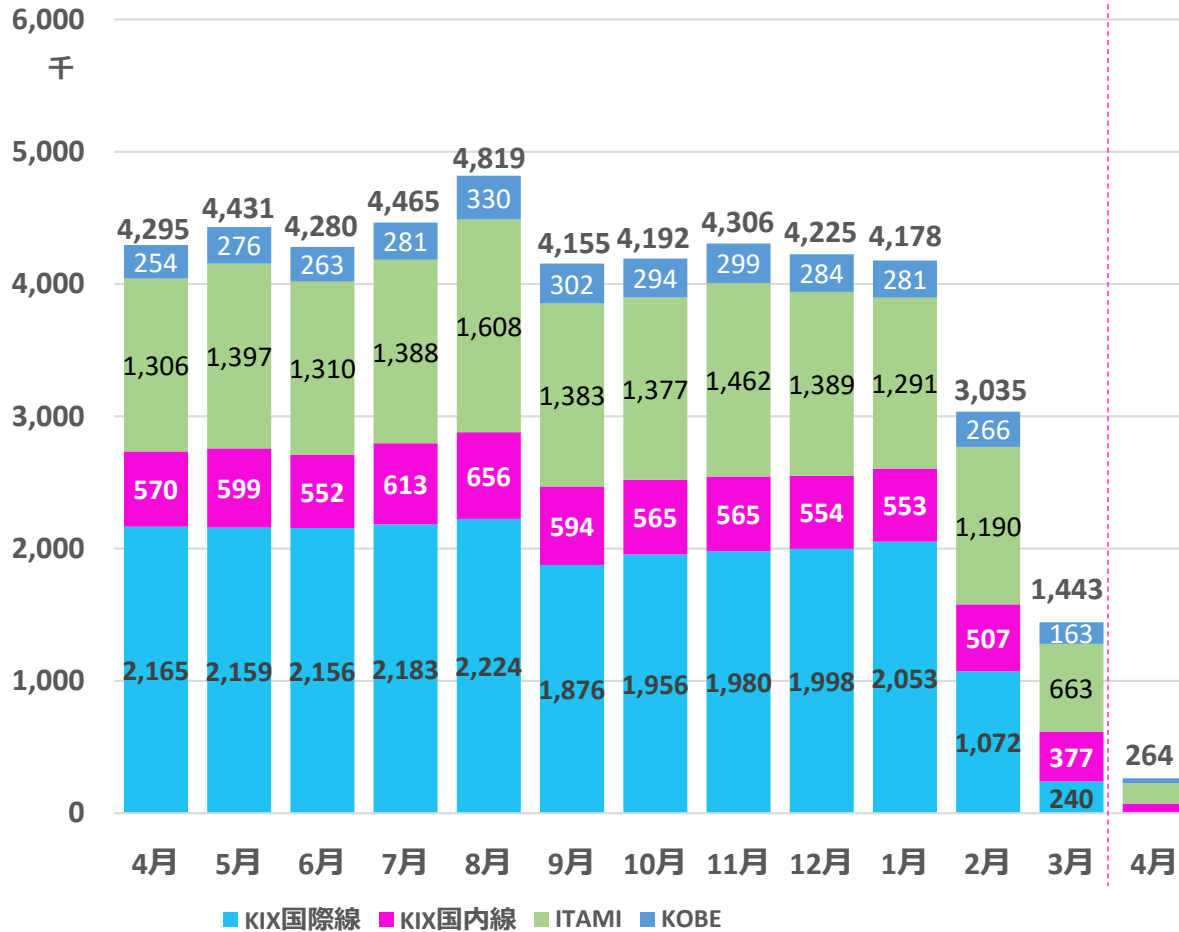
【航空系】3空港合計の総発着回数が年度として過去最高

- 3空港合計の総発着回数、国内線発着回数ともに、年度として**過去最高**
- 3空港合計の総旅客数は、2020年1月までは好調に推移していたものの、COVID-19の国内外での感染拡大の影響を受け、年度を通じては、**前年比2%減**
- 関西国際空港：総発着回数、国際線発着回数ともに、年度として**過去最高**
- 大阪国際空港：COVID-19の影響を受け、旅客数は、**前年比3%減**
- 神戸空港：2019年8月の発着回数の規制緩和、それに伴う新規就航・増便により、発着回数・旅客数とともに、年度として**過去最高**を記録

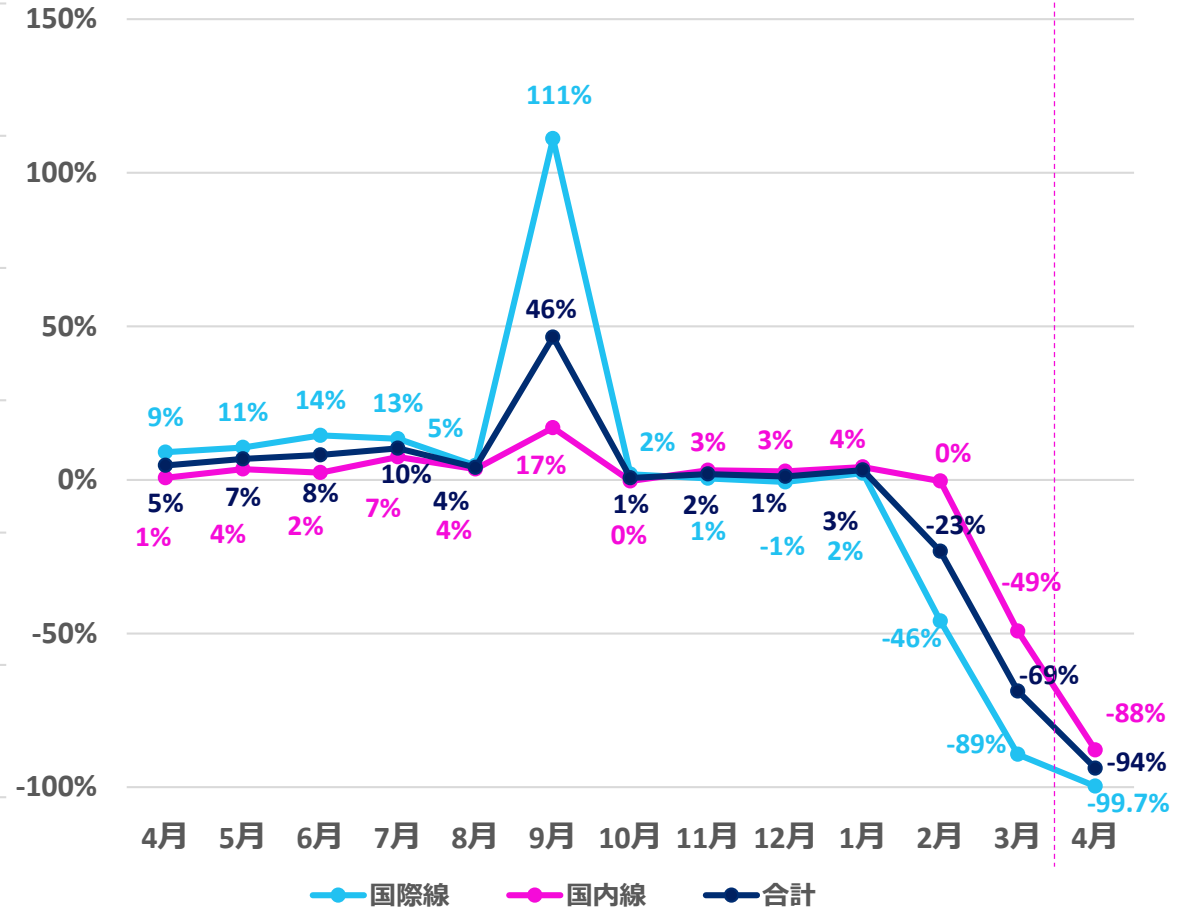
	2018年度	2019年度	増減	%
発着回数（万回）	35.8	36.6	0.8	+2%
関西国際空港	19.0	19.6	0.6	+3%
大阪国際空港	13.8	13.7	(0.1)	-1%
神戸空港	3.0	3.3	0.3	+11%
航空旅客数（万人）	4,890	4,782	(108)	-2%
関西国際空港	2,941	2,877	(64)	-2%
国際線	2,290	2,206	(84)	-4%
日本人旅客	718	717	(1)	-0%
外国人旅客	1,552	1,469	(83)	-5%
大阪国際空港	1,630	1,577	(53)	-3%
神戸空港	319	329	10	+3%

2019年度 3空港旅客数推移

2019年度旅客数推移



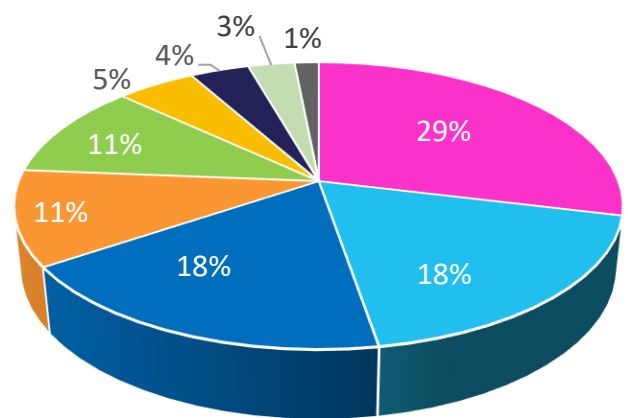
2019年度旅客数 前年同期比



【航空系】 KIX 国際線旅客数 中国、東南アジア方面が好調

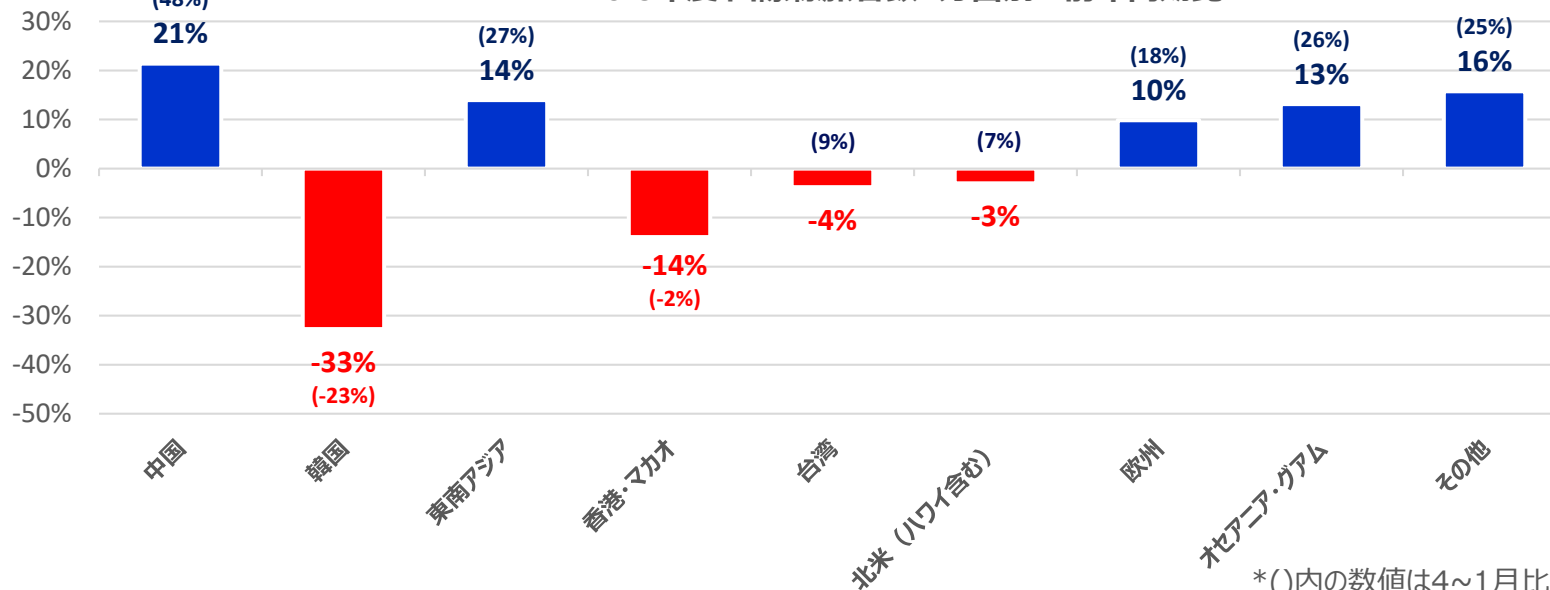
- ✈ 中国、東南アジア方面を中心に増便が続き、旅客数は、中国方面は前年を21%上回り、東南アジア方面は前年を14%上回った
- ✈ 外交問題の影響を受けた韓国、デモの影響を受けた香港方面の旅客数はマイナス
- ✈ COVID-19の影響を受ける前の2019年4月から2020年1月の累計旅客数においては、上記韓国、香港以外は前年比プラスで推移

2019年度 国際線旅客数 方面別シェア



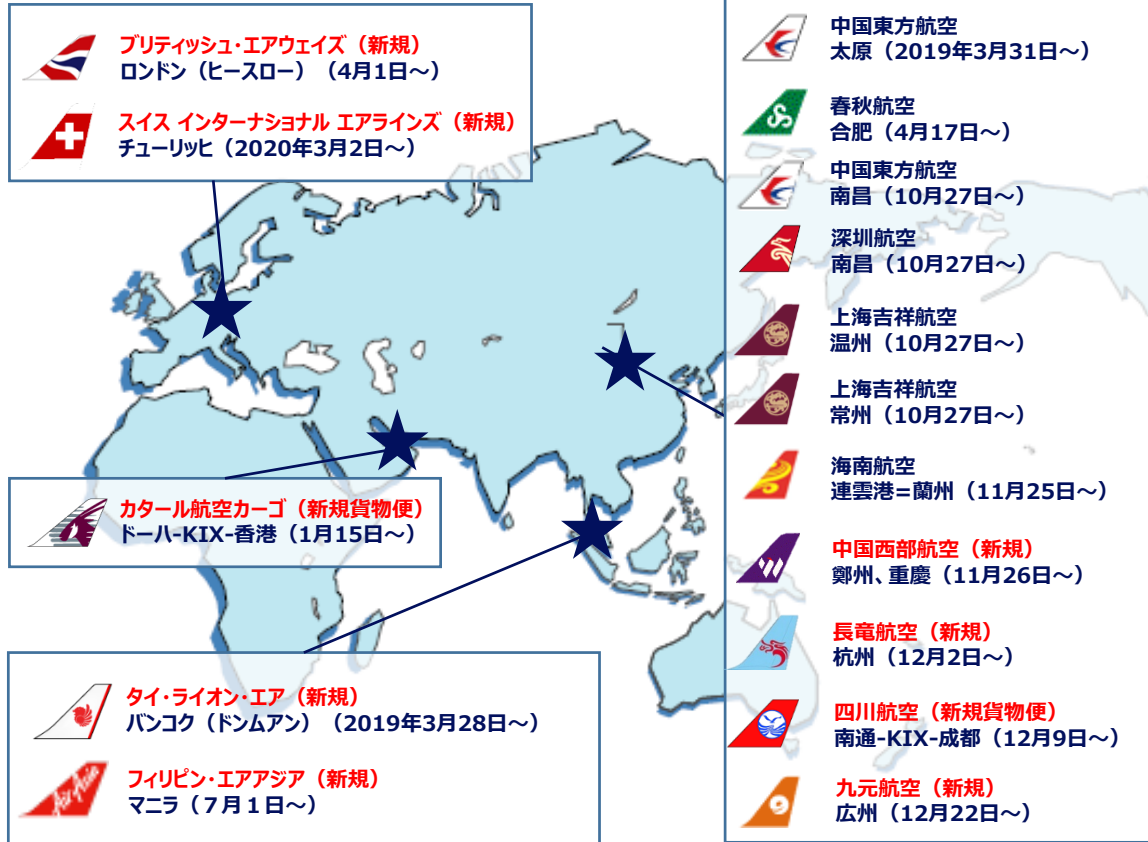
- 中国
- 韓国
- 東南アジア
- 香港・マカオ
- 台湾
- 北米 (ハワイ含む)
- 欧州
- オセアニア・グアム
- その他

2019年度 国際線旅客数 方面別 前年同期比

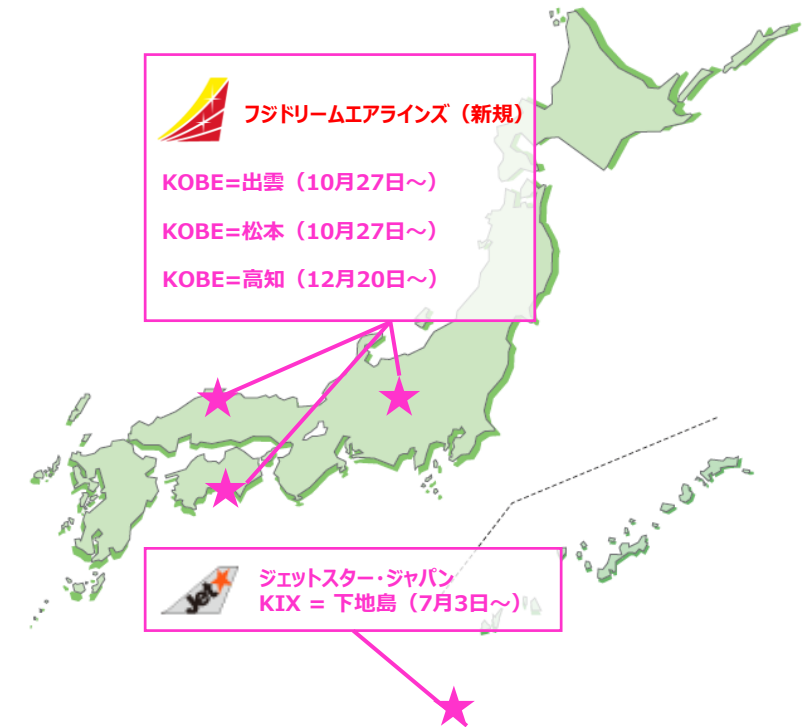


【航空系】 旅客便・貨物便 新規就航エアライン/路線 (2019年夏期・冬期)

KIX 国際線 新規エアライン/新規就航路線

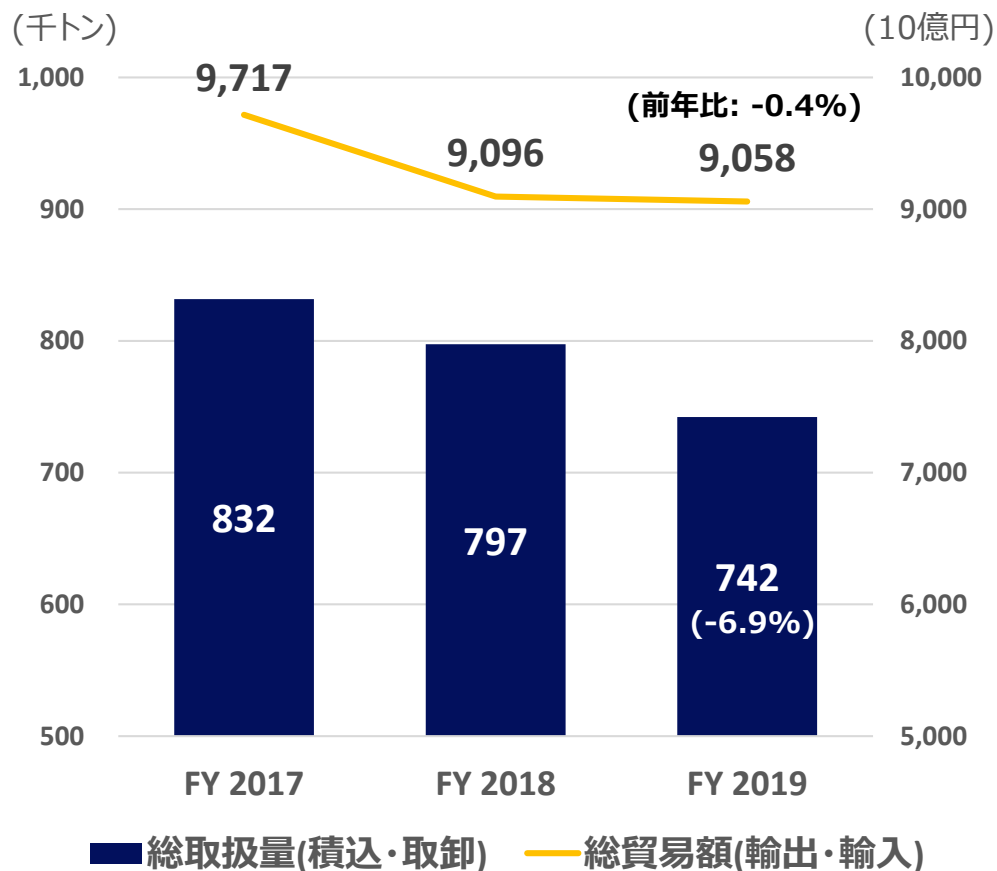


国内線 新規就航エアライン/新規就航路線



【国際貨物】 貨物量・成長率 (2019年度)

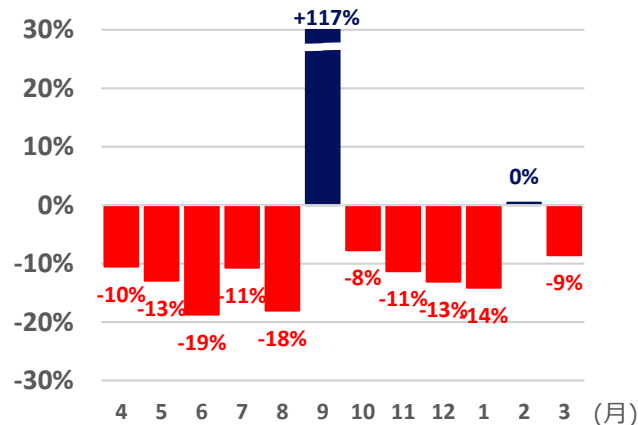
KIX/貨物量・貿易額



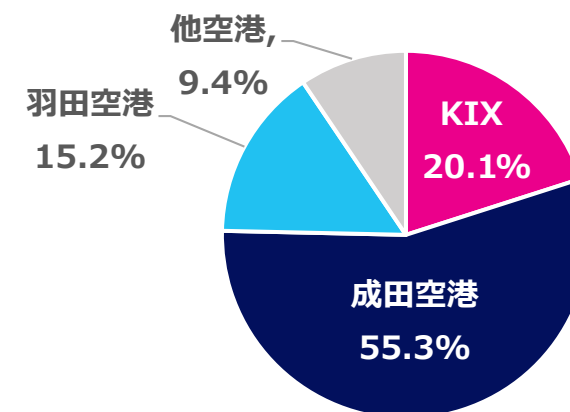
- ✈ 米中貿易摩擦を原因とした貨物量の減少が関西国際空港だけではなく、国内他空港にも大きく影響
- ✈ 一方、貿易額はほぼ前年を維持
- ✈ カタール航空や四川航空の貨物便就航など、貨物ネットワークは拡大



KIX 貨物量/成長率

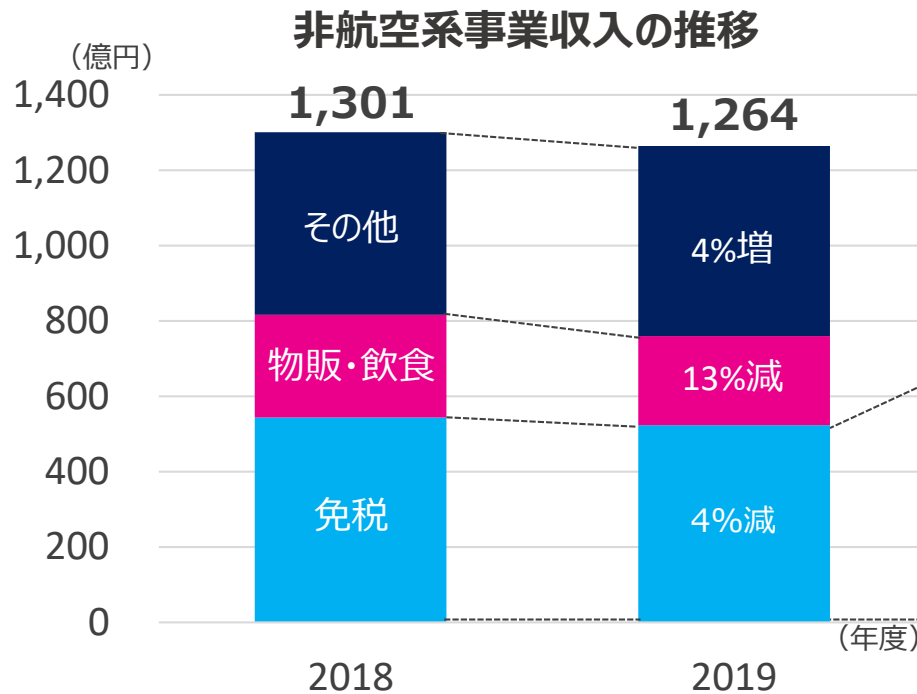


国際航空貨物量シェア(FY2019)

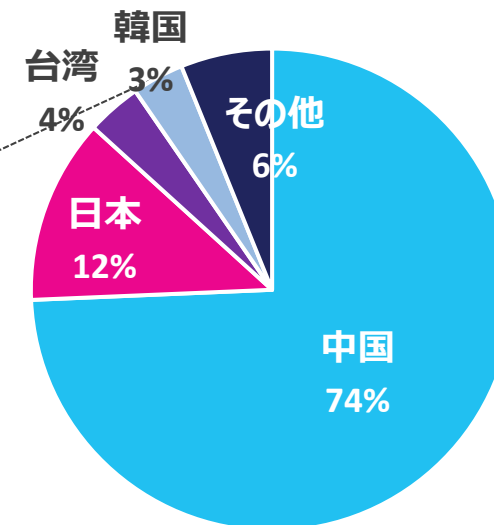


【非航空系】 年度収入は新型コロナウイルスの影響で前年割れ

- 2020年1月までの非航空系事業収入の累計は、堅調な中国人購買に支えられ過去最高を記録（前年比+8%）
- 一方、2月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的流行拡大にともない、航空旅客数が大幅に減少した影響を受け、年度を通じては、前年比37億円（-3%）のマイナス
- 直営免税店における中国人売上はコロナウイルス流行前の高い客単価と購買率を反映し、年度を通じて74%のシェア



国籍別直営免税店売上の割合



【非航空系】 お客様ニーズの高い店舗やサービスを導入

- 関西国際空港では、国際線ゲートエリアのブランド店舗や飲食店に加え、一般エリアでも外貨両替などのサービス店舗や飲食店が新規開業
- 大阪国際空港では、立体駐車場建て替えやレンタカーステーション開設などアクセスの利便性を充実

KIX

ITAMI

2019/4/24
OPEN



E PRONTO

2019/4/25
OPEN



PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE
BAO BAO ISSEY MIYAKE

2019/5/16
OPEN



CLÉ DE PEAU BEAUTÉ

2019/4/27
OPEN



北立体駐車場（伊丹）

2019/7/8
OPEN



レンタカーステーション（伊丹）

2019/6/1~
4店舗 順次OPEN



外貨両替トラベックス

2019/9/26
OPEN



なか卯

2019/12/1
OPEN



TORY BURCH

2020/3/11
OPEN



HUGO BOSS

航空系・非航空系収入の割合は前年と同水準

- 非航空系収入の割合：**59%と前年と同水準**
- 航空系収入：新型コロナウイルスの影響による旅客数の減少に伴い**9億円の減収**
- 非航空系収入：新型コロナウイルスの影響により免税事業収入を中心に**37億円の減収**

